

大区画化ほ場とスマート農業等の導入による水稲の大規模経営 ～茨城県水戸市 吉川 勝久氏～

経営体の概要

事業実施前：平成27年
基幹作物：水稲
経営面積：49.0ha

現在：令和7年

基幹作物：水稲（コシヒカリ、あきたこまち、にじのきらめきなど多品種を栽培）

経営面積：90.0ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

●狭小不整形かつ排水条件が悪くほ場も分散しており、非効率な営農条件。



【現在】

●事業により、大区画・整形・汎用化された水田が整備されたことで、作業効率が向上し、営農条件が大幅に改善。



営農改善、経営転換等のポイント

①規模拡大

整備前は49haで水稲を栽培していたが、事業を契機に地域の農地を引き受け、経営面積は90haに拡大。整備前は10～20a区画のほ場であったが、事業による整備後は最大2.2ha区画に大区画化され、集約化されたことから効率的な営農が可能となった。

②収量の向上

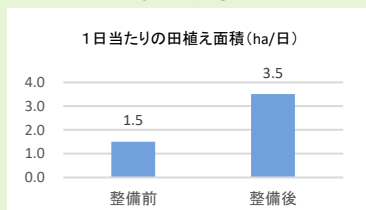
J Aと相談しながら茨城県で育種した新品種を導入し、生育や収量の良い品種を選抜して栽培。特に、J Aに出荷する輸出用米や卸業者へ出荷する業務用米は、より多収量な品種としている。また、事業によって暗渠や給水栓等が整備されたことで、排水性や用水不足等が改善されたことで収量が約1割向上し、多収米品種で約10.5～12俵、コシヒカリで約9俵となっている。

③省力化

事業を契機に6条植からGPS付きの8条植田植機に切り替え、大区画化と集積・集約化の効果もあり、整備前は1.5ha/日が限界であった田植え作業は、3～4ha/日まで可能となった。また、事業を契機にドローン2台を導入し防除作業等を実施。これにより防除作業等も大幅に軽減(90ha/10日)されるなど、作業の効率化・省力化を図っている。



吉川夫妻



1日当たり作業面積の変化



ドローンによる防除作業

事業概要

事業種：国営緊急農地再編整備事業
関係市町：茨城県水戸市、東茨城郡茨城町
受益面積：652ha
事業期間：平成28年度～令和15年度
事業目的：区画整理、用水改良
主要工事：区画整理652ha、末端用水路109.5km、末端排水路69.8km、暗渠排水607ha、幹線道路3km、支線道路

位置図



茨城中部地区

<問い合わせ先>

関東農政局
農村振興部農地整備課
競争力強化事業推進担当
電話：048-740-0116

(令和7年度調査時点)